

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【社会】

1. 対象 6年生

歴史の学習に対して子どもたちはあまり前向きではない。単元を貫く学習課題や歴史上の人物になりきって考えを深めるパフォーマンス課題を設定することで、歴史的事象と子どもたちの距離を縮め、自分ごととして考えることで、歴史的な内容の学習に興味を持てるようにしたいと考えた。そのような積み重ねから、小単元の学習を重ねるごとに、子どもたちの歴史的事象に対する興味・関心の高まりが見られ、自分ごととして考え、主体的に学ぶ姿が見られるようになってきた。

江戸時代までの歴史の学習は、主に日本の歴史を創ってきた統治者たちの目線で学習を進めてきており、様々な資料の読み取りを行ってきたが、複数の資料を比較したり関連付けたりすることに課題が見られる。そこで、江戸時代の学習は、複数の資料を比較したり関連付けたりしながら、統治者である江戸幕府の政策だけではなく、様々な立場にある被治者の思いや影響についても気付くことができるようにする。歴史的事象を多角的に捉えていくことで、今以上に子どもたちが歴史的事象に対して興味をもち、自分ごととして考え、主体的に学ぶことができるようにしていきたい。

2. 単元名

「260年以上続いた江戸幕府の光と影～家光の政策と人々の暮らし～」(全11時間)

(「幕府の政治と人々の暮らし」「新しい文化と学問」)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	武士による政治が安定したことや町人の文化が栄え、新しい学問がおこったことについて理解するとともに、統計などの各種資料を通して、情報を適切に調べまとめることができる。
思考力, 判断力, 表現力等	江戸幕府の政治や町人の文化、新しい学問の特色、出来事や人物の関連や意味を多角的に考えたり、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考え、説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	江戸幕府の政治や町人の文化、新しい学問について、主体的に学習の問題を解決したり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりするとともに、多角的な思考や理解を通して、日本の歴史や伝統を大切にしていこうとする。

4. 本時の目標

苦しいはずの百姓たちの生活に楽しむゆとりが生まれた理由を、資料を比較・関連付けながら考えることを通して、その理由を百姓の立場から自分の言葉で表現することができる。【思考力, 判断力, 表現力等】

5. 授業展開【(本時)・単元】

解決したい課題や問い
学習課題: 本当に百姓たちは、苦しい生活をしていたのだろうか?
学習問題: 苦しいはずの百姓たちの生活に、楽しむゆとりがあったのはどうしてだろうか?

